

四国がんセンター

呼吸器内科



ペメトレキセド+プラチナ製剤+免疫チェックポイント阻害薬療法を受けられる

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿さま

2017年9月1日　作成
2026年11月12日　改訂

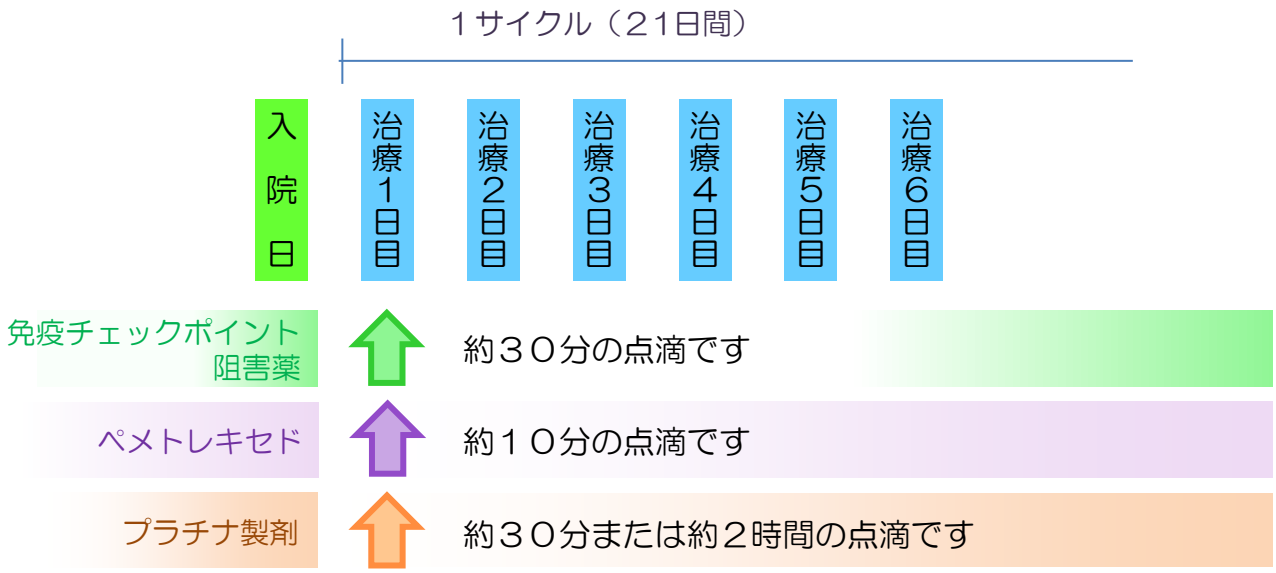
私たち医療スタッフは

Ⅰ．入院や抗がん剤治療に対する不安を軽減し、最良の状態で治療が受けられるようにお手伝いします

Ⅱ．抗がん剤治療の副作用や苦痛を軽減し、安全に治療を続けることができるようにお手伝いします



ペメトレキセド+プラチナ製剤+
免疫チェックポイント阻害薬療法のスケジュール



・この他に、アレルギー予防や副作用予防のための点滴があります

・抗がん剤を投与したときに、過敏反応が起こることがあります
過敏症状がでたら、早めに点滴を止めることが大切です
・息が苦しい、胸がドキドキする、吐き気など気分が悪いときは
我慢をしないで、すぐに医療スタッフにお知らせください



治療前の歯科受診について

◆治療時に起こる口のトラブルを予防し治療が円滑に進むように、治療開始前の歯科診察を行っています

◆治療前の歯科受診では、以下を行います

- レントゲン検査・診察（口腔内の状態を診る）
- 歯ブラシだけではとれない細菌の除去
- 適切なセルフケア（歯磨き、うがい）指導

◆通常１～２回の受診で終えることができます

口の中はとても細菌の多い場所です
治療中や治療後にその細菌が悪影響を及ぼすことがあります
特に、治療後の口内炎・肺炎等を防ぐには治療前から口の中を
きれいにし細菌をできるだけ減らしておくことが有効です



排便について

普段からご自身の便の性状を確認し、入院中に排便調整の目安や方法を医療スタッフと一緒に確認しておきましょう

排便回数が４回以上増えたとき、下記の表の６（泥状便）～７（水様便）の排便が続くとき、周期的に腹痛があるときはすぐに医療スタッフに伝えましょう

３日以上排便がない、いきまないと便が出ない、便は毎日出ているがすっきりしない腹部膨満感などの症状があるときは、排便回数や性状によって緩下剤を使用します

※排便の状況や下痢・便秘の辛さは人によって違います
※排便のコントロールが難しい場合は看護師と解決方法を相談しましょう

便の性状について（ブリストルスケール）

ブリストルスケールは、便のタイプ（硬さ）を７種類に分類した世界共通の尺度です
自分の便のタイプを知り、排便調整の参考にしましょう

1	コロコロ便		硬くてコロコロの 兎糞状の便
2	硬い便		ソーセージ状であるが 硬い便
3	やや硬い便		表面にひび割れのある ソーセージ状の便
4	普通便		表面がなめらかで柔らかい ソーセージ状、あるいは 蛇のようなとぐろを巻く便
5	やや軟らかい便		はっきりとしたしわのある 柔らかい半分固形の便
6	泥状便		境界がほぐれて、ふにゃふにゃの不定形の小片便 泥状の便
7	水様便		水様で、固形物を含まない 液体状の便

入院中の生活の注意点



◆治療中は免疫力低下のため、感染リスクが高くなります
マスクの着用、手洗い・うがいをしましょう
入院中、手洗いの動画をテレビの無料チャンネルで視聴できます
◆口の中は清潔にするよう心がけましょう
◆排泄を促すために水分をしっかりとりましょう
◆膀胱に尿が溜まったままの状態は、腎臓や膀胱に負担がかかり炎症を起こすことがあります
尿意を感じたら、我慢をしないでトイレに行きましょう
◆排尿時に痛みや残尿感がある場合には看護師にお伝えください
◆正しく安全に点滴を投与するために輸液ポンプを使用します
・点滴が入っている部位を曲げたり、ねじったり、また、点滴チューブをひっぱったりしないようにしてください
・歩行時は、点滴台を支えにして歩くと転倒する可能性があります
点滴台は、支えにしないようにしましょう

こんなときは看護師にお知らせください
＊輸液ポンプを使用しているときに機器のアラーム音が鳴ったとき
＊点滴が入っている部位に違和感や痛みを感じたり、腫れてきたとき



◆抗がん剤治療開始から治療後２日間ほどは、尿や便などから抗がん剤が排出されます
尿や便に直接触れても健康に直接被害を及ぼすことはありませんが、できるだけ周りに広げないように以下のことに注意しましょう

・男性の方は飛び散り防止のため、座って排尿しましょう





・尿がこぼれた場合は、トイレットペーパーできれいに拭き取りトイレに流しましょう
２度拭き取ると良いでしょう

・トイレの後、フタがある場合は、
フタをして水を２回流しましょう



・ナプキンや尿とりパッドを使用している場合は、看護師にお知らせください
＊使用済みのナプキンや尿とりパッドは、ナイロン袋に入れて口を結びましょう
＊トイレからナースコールを押して、看護師に渡しましょう

・トイレのあとは石けんなどでよく手を洗いましょう
・尿や吐いてしまったもので衣類が汚れた場合は、ほかの洗濯物と分けて洗濯しましょう

ダイアリー

このパンフレットには、 当院での標準的な治療や日常生活で注意していただきたいポイントなどを記載しています

また、よりよい状態で退院を迎えられるように患者さんご自身の目標と医療スタッフの目標をあげています

入院は、約３週間の予定です

治療後の回復は、個人差があり、体の状態によっては、予定どおりにすすまないこともありますが、その都度対応していきますのでご安心ください

私たち医療スタッフは、これからの入院生活を不安なく送れるように支援させていただきます



入院日～治療前日　　月　　日～　　月　　日



今日の目標
- 治療の必要性、副作用について理解できる
- 医療スタッフの説明が理解できる
- ビタミン剤を自分で管理し、飲むことができる

＜時間＞　＜予定＞

11：00　入院

【入院後に以下のことを予定しています】
- 看護師から病院内、病棟内入院生活の説明

（テレビの病院案内も参考にしてください）

12：00　昼食
- 検温、血圧測定、身体測定
- 連絡先、既往歴、生活習慣などの聞き取り
- 血液検査、尿検査、胸部レントゲン検査
- サインをした同意書は看護師にお渡しください
- わからないことやもう少し詳しく説明を聞きたいことなどがありましたら、遠慮なくお尋ねください

治療の流れや注意事項について説明します
過敏症、点滴部位の痛み・血管痛について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

＜お薬＞
- 他の病院で処方された薬は、一度お預かりします
  医師に確認後、続けるか、中止するかをお伝えします
- ビタミン剤（パンビタン粉末）を正しく飲めているか確認します

＜食事＞

18：00　夕食
- 食物アレルギーのある方は、医療スタッフにお知らせください
- 基礎疾患（糖尿病、高血圧等）がある方は、治療食になる場合があります

21：30　消灯
- 初回治療のときは、管理栄養士より病院食や食事の工夫について説明があります
  ２回目以降、味覚障害や食欲不振等がある場合、栄養指導を希望される場合は、お知らせください

＜清潔＞
- 治療前日は、シャワー浴をしましょう

決められた時間にパンビタン粉末を飲みましょう



※２回目以降の入院の方は、治療日記を確認します
薬剤師がお渡しした冊子に記載されている症状
- 息苦しさ
- 下痢
- 皮膚の症状

などがあるときは、看護師にお知らせください

薬剤師から治療の流れや副作用の説明があります
注意点について詳しく記載された冊子をお渡しします
治療が開始したら、毎日治療日記を記入しましょう



医療スタッフの目標
- 入院生活や抗がん剤治療に対する不安や心配ごとがないように支援します



治療１日目　　月　　日



今日の目標
- 予定どおり、安全に治療を受けることができる
- ビタミン剤を自分で管理し、飲むことができる

＜時間＞　＜予定＞

水分をしっかりとりましょう
治療日誌を記入しましょう

決められた時間に
パンビタン粉末を
飲みましょう



6：00 起床
検温、血圧測定
- 開始時刻については、看護師からお知らせします

7：30 朝食
（　　）時から、点滴をします

※抗がん剤の点滴前後で血圧、脈拍を測定します

10：00 検温、血圧測定
- 初めて治療を受ける場合は、アレルギー症状の早期発見のために、抗がん剤投与前から終了まで心電図モニターを胸に装着します

12：00 昼食
- 治療前に、トイレに行きましょう
- 点滴が終了後、シャワー浴ができます
  体調に合わせて体を拭くこともできます
  看護師がお手伝いします

- 針の入っているところが赤くなった、腫れている、痛みがあるときはすぐにお知らせください
- 息が苦しい、胸がドキドキする、吐き気など気分が悪い、体がかゆい、咳が出るときは、我慢をしないでお知らせください

吐き気・嘔吐、味覚障害・食欲不振、倦怠感について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

食事は、めん類やフルーツなどに変更もできます

18：00 夕食
夕食後、オランザピン錠を２錠服用します（シスプラチン投与のみ）

19：00 検温
血圧測定

眠気が強く出ることがあるので、薬を飲む前にトイレに行きましょう
また、夜ふらつくときは看護師を呼びましょう

21：30 消灯

冊子に記載されている症状（息苦しさ、下痢、皮膚の症状など）がでたときは、看護師にお知らせください

医療スタッフの目標
- アレルギー症状や副作用症状の早期発見に努めます
- 抗がん剤の血管外漏出予防に努めます



治療２日目～３日目　　月　　日～　　月　　日



今日の目標
- 副作用症状があれば、医療スタッフに知らせることができる
- ビタミン剤を自分で管理し、飲むことができる

＜時間＞　＜予定＞

6：00 起床

水分をしっかりとりましょう
治療日誌を記入しましょう

7：30 朝食
朝食後、デカドロン２錠を服用します
（シスプラチン投与の方のみ）

決められた時間に
パンビタン粉末を
飲みましょう



10：00 検温、血圧測定



フタをして水を
２回流しましょう

12：00 昼食

吐き気や口内炎などで食事が食べにくいときは、
食事内容を変更できます

治療２日目：便秘、下痢
治療３日目：口内炎、神経障害、皮膚障害
について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

針の入っているところが赤くなった、腫れている、痛みがあるときは
すぐにお知らせください

シャワー浴をしましょう

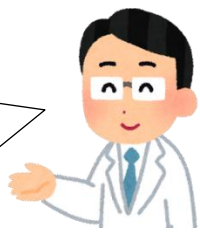
感染予防のために手洗い・うがいは
しっかりしましょう

18：00 夕食
夕食後、オランザピン錠を２錠服用します （シスプラチン投与の方のみ）

21：30 消灯

眠気が強く出ることがあるので、薬を飲む前に
トイレに行きましょう
また、夜ふらつくときは看護師を呼びましょう

医療スタッフの目標
- 副作用症状の早期発見に努めます
- 抗がん剤の血管外漏出予防に努めます
- 不安なく療養できるように支援します



治療４日目～７日目　　月　　日～　　月　　日



今日の目標
- 副作用症状があれば、医療スタッフに知らせることができる
- ビタミン剤を自分で管理し、飲むことができる

＜時間＞　＜予定＞

水分をしっかりとりましょう
治療日誌を記入しましょう

決められた時間に
パンビタン粉末を
飲みましょう



6：00　起床

7：30　朝食
朝食後、デカドロン２錠を服用します
（シスプラチン投与の方のみ・治療４日目まで）

10：00　検温、血圧測定

12：00　昼食

吐き気や口内炎などで食事が食べにくいときは、
食事内容を変更できます

治療４日目：骨髄毒性
治療５日目：肺障害、息切れ・動悸
治療６日目：脱毛
治療７日目：腎機能障害、浮腫
について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照
「がん治療による脱毛に備えて（頭髪編）」パンフレット参照

シャワー浴をしましょう

感染予防のために手洗い・うがいは
しっかりしましょう

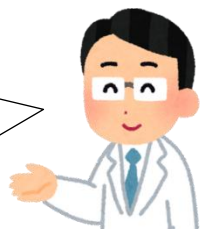
18：00　夕食
夕食後、オランザピン錠を２錠服用します
（シスプラチン投与の方のみ・治療４日目まで）

21：30　消灯

眠気が強く出ることがあるので、薬を飲む前に
トイレに行きましょう
また、夜ふらつくときは看護師を呼びましょう

冊子に記載されている症状（息苦しさ、下痢、皮膚の症状など）
がでたときは、看護師にお知らせください

医療スタッフの目標
- 副作用症状の早期発見に努めます
- 不安なく療養できるように支援します



治療８日目～退院前日　　月　　日～　　月　　日



今日の目標
- 副作用症状があれば、医療スタッフに知らせることができる
- ビタミン剤を自分で管理し、飲むことができる
- 退院後の日常生活の注意点について理解できる
- ３７.５℃以上の発熱がない

＜時間＞　＜予定＞

水分をしっかりとりましょう
治療日誌を記入しましょう

決められた時間にパンビタン粉末を飲みましょう



6：00　起床

7：30　朝食

9：30　尿検査、レントゲン検査（８日目・１５日目）
血液検査（８日目・１０日目・１５日目）
検査結果で医師から退院許可が出ます

10：00　検温、血圧測定

12：00　昼食

- 副作用の対処方法や日常の過ごし方など不明な点があればお知らください
- 吐き気や口内炎などで食事が食べにくいときは、食事内容を変更できます

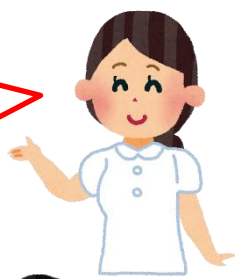
【次回外来で治療予定の方】
退院までに通院治療室の見学に行きます
「外来で抗がん剤点滴治療を受けられる方へ」ページ参照

★退院前日
退院後の日常生活について説明します
「退院後の日常生活について」ページ参照

感染予防のために手洗い・うがいはしっかりしましょう

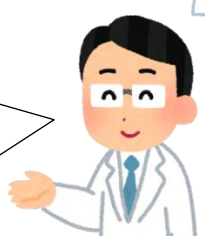
18：00　夕食

息が苦しくなった、咳が増えた、皮疹（発疹）が出た、３７.５℃以上の熱が出たときなどは、すぐにお知らせください



21：30　消灯

医療スタッフの目標
- 副作用症状の早期発見に努めます
- 不安なく療養できるように支援します
- 退院の準備をすすめられるように支援します



退院日　　月　　日



今日の目標
- ３７.５℃以上の発熱がない
- 退院後の日常生活の注意点について理解できる
- 退院できる

＜時間＞　＜予定＞

水分をしっかりとりましょう
治療日誌を記入しましょう

決められた時間に
パンビタン粉末を
飲みましょう



6：00　起床
検温、血圧測定

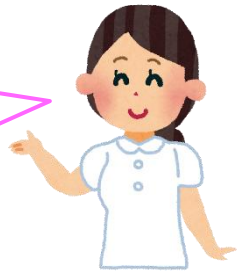
7：30　朝食

次回外来予約票をお渡しします

10：00　退院
退院前に忘れ物がないようにご確認ください
「入院診療費料金連絡票」を病室にお届けしますので、
２階医事受付窓口でお支払ください

ビタミンＢ１２の筋肉注射は、９週間ごと（約２～３か月）に
外来または入院で実施します

治療後、時間が経って出現する副作用もあります
薬剤師がお渡しした冊子の副作用症状について再度
確認し、次の治療に向けて体調を整えておきましょう



医療スタッフの目標
- 退院後の日常生活に不安がないように支援します



ウィッグ展示室



ウィッグ　帽子　ヘア用品　ネックカバーなど



ウィッグ以外にも
お役立ち製品が色々♪



メイク　ネイル用品

治療によって脱毛・肌や爪のトラブルが起こる可能性がある方に、上記展示品の案内や試着を行っています

お住まいの自治体によっては、治療に伴うウィッグに関する助成制度を設けています
詳しくは、本館２階『がん相談支援センター』でご相談ください

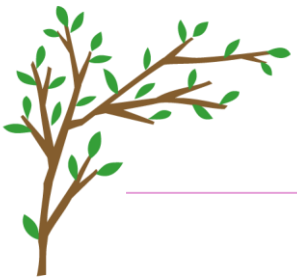
※暖だんでの販売は行っておりません
　気になる製品については購入方法をお伝えしています

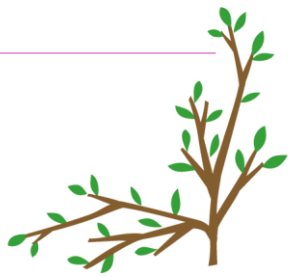
体調の変化や副作用症状を書きとめていきましょう

月／日			月／日		
1日目	／		8日目	／	
2日目	／		9日目	／	
3日目	／		10日目	／	
4日目	／		11日目	／	
5日目	／		12日目	／	
6日目	／		13日目	／	
7日目	／		14日目	／	

体調の変化や副作用症状を書きとめていきましょう

月／日		
15日目	／	
16日目	／	
17日目	／	
18日目	／	
19日目	／	
20日目	／	
21日目	／	





外来で抗がん剤点滴治療を受けられる方へ

通院治療の流れ

① 受付



B受付

② 採血
中央処置室



☆採血時のお願い☆
採血時に注意することは退院前に確認しておきましょう
点滴予定の腕とは反対の腕で採血しましょう



③ 診察受付

採血結果が出るまで、
約３０分～１時間かかります

④ 診察

A受付
呼吸器科
消化器科
緩和ケア
感染症腫瘍内科
骨軟部腫瘍・整形外科
禁煙外来

B受付
泌尿器科
血液腫瘍内科
原発不明がん診療科

C受付
乳腺外科
婦人科
形成外科
頭頸科・甲状腺腫瘍外科
歯科
病理診断科

S受付
消化器内科
糖尿病内科
内分泌内科
循環器内科
皮膚科
眼科
精神科
脳神経外科
リンパ浮腫
がんゲノム医療外来

治療決定

S受付

⑤ 治療
通院治療室

看護師が点滴の針を刺し、
確認後に抗がん剤を開始します

治療終了

検査や他の診療科で診察のある方は、各受付へ

検査の説明を受ける方は、予約センターへ

予約センターは
B受付の隣です



⑥ 会計

処方箋もすべてファイルに入れたまま総合受付６番窓口に提出してください。

＊お薬の処方がある方へ
６番窓口で処方箋をお渡しします。４日以内にお薬をお受け取りください。

通院治療室での過ごし方

●外来で初めて治療を受ける方は、説明と確認を行うため、少し時間がかかります。

●入室時に、ベッドか椅子を選択できますが、混雑時にはご希望に添えないこともあります。

●テレビは無料で利用できます。ラジオや音楽プレイヤー等の持ち込みも可能です。
ご利用される場合にはイヤホンをご用意ください。

●携帯電話はマナーモードに設定し、通話はご遠慮ください。

●通院治療室内での飲食は可能ですが、においの強いものはご遠慮ください。
飲食される方は、各自でご準備ください。

●トイレは通院治療室内のトイレをご使用ください。
男女兼用ですが、３か所あります。

●付き添いは原則ご遠慮いただいております。
ご家族の待機場所として「暖だん」や「図書コーナー」などがあります。

●副作用や日常生活で困っていることや相談したいことがあれば、いつでも
スタッフに声をおかけください。









退院後の日常生活について

●発熱・感染予防

抗がん剤の影響で白血球が減少し、感染しやすくなることがあります

・手洗い、うがいを行いましょう
・人混みではマスクを着用しましょう
・３７.５℃以上の発熱がある場合は、病院へご連絡ください

●呼吸

ペメトレキセド+免疫チェックポイント阻害薬により肺障害が起こることがあります

・息苦しくなったとき
・咳が続くとき
・息切れが強くなったとき
・発熱を伴うとき

このような症状がある場合は、早めにご連絡ください

●副作用確認シート

退院までに「免疫チェックポイント阻害薬　副作用確認シート」をお渡しします
次回外来受診または入院時に、記入した副作用確認シートをお持ちください
記入方法は、後方の記入例を参考にしましょう

●皮膚

皮疹やかゆみが出ることがあります
以下のような症状がある場合は、外来受診時に医療スタッフへお伝えください

・発疹が出たとき
・発疹が広がったとき
・かゆみが強いとき

●食事



無理をせず食べられるものを選びましょう
少量ずつ回数を分けて食べることも効果的です
味覚障害や食欲不振等がある場合、栄養指導を希望される場合は
お気軽にお声かけください
自宅で調理をしている方など、一緒に管理栄養士の話を聞きたい方がいる場合は、
一緒に来院してください

●口腔ケア

毎食後の歯みがきとうがいを続けましょう
口の中を清潔に保ちましょう
口内炎や口の痛みがある場合はご相談ください

●お薬



パンビタン粉末（葉酸）は副作用を軽減するための大切な薬です
・医師の指示どおりに内服しましょう
・自己判断で中止しないでください
・ビタミンＢ１２注射は外来で継続します
他の病院の薬を服用する場合は、医師に相談してください
服用しても症状が改善されない場合は、病院にご連絡ください

●排泄

水分をしっかり摂りましょう
便秘予防のため軽い運動を取り入れましょう
下痢のときは白湯やスポーツ飲料などをとりましょう
水分を控えると脱水症状を起こすことがあります
便秘ぎみの方は、緩下剤（便をゆるくする薬・押し出す薬）で排便コントロールをしましょう
退院までに医療スタッフと対処方法について相談しておきましょう

●活動

体調に合わせて無理なく過ごしましょう
散歩など軽い運動を続けましょう

●仕事

これから先、安心して働き続けるためには
体の状態に合わせた休み方や働き方が必要になることもあります
病院では、患者さんの「働きたい！」をサポートしています
ご相談は、がん相談支援センターへお問い合わせください



ちりょうさ
厚生労働省『治療と仕事の両立支援』キャラクター

記入例　青字は記入例です

免疫チェックポイント阻害薬　副作用確認シート

ＩＤ（診察券番号）：123456

記入日：2025 年 4 月 1 日　　氏名：四国　太郎

1．下記の該当する症状に☑を記入してください

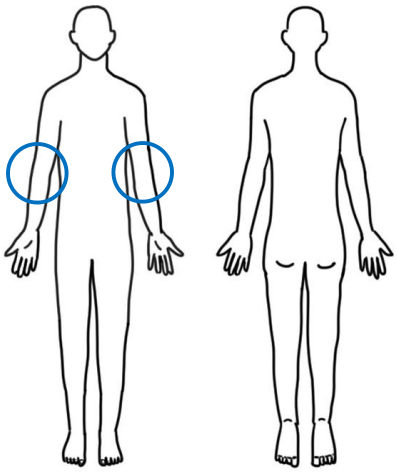
重症筋無力症・筋炎
- ☐ まぶたが下がってくる
- ☐ 物が二重に見える
- ☐ 筋肉痛がある

1型糖尿病
- ☐ 喉がひどく渇く ※1
- ☐ 尿の回数が増える

大腸炎・下痢
- ☐ 下痢が続く
- ☐ 便に血が混じる

間質性肺炎/心筋炎
- ☑ 息苦しい
- ☐ 動悸がする
- ☐ 咳が増えた
- ☐ 37.5℃以上の発熱 ※2

症状がある部位に
○を記入してください



正面　　背面

内分泌障害
- ☐ 体がだるい
- ☐ 食欲が落ちる
- ☐ 吐き気が続く

皮膚障害
- ☑ 発疹がある
- ☑ 皮膚に痒みがある

神経障害
- ☑ 手足のしびれがある
- ☐ 力の入りにくさを感じる

静脈血栓塞栓症
- ☐ 足にむくみや腫れがある

2．各症状について、下記の該当する状況すべてに☑をしてください
（退院後～当院受診まで/前回受診～今回受診までの体調をお答えください）

症状＼グレード	0	1	2	3
対処		症状がつらい場合は病院に相談しましょう	症状が2-3日続く場合 速やかに病院へ連絡しましょう	速やかに病院へ連絡しましょう
呼吸困難（息苦しい）	☐ ない	☐ 階段や坂道を登る際に息切れがある	☑ ゆっくり歩行した際に息切れはあるが、日常生活はできる	☐ 息切れのため、身の回りのこともできない
倦怠感（体のだるさ）	☑ ない	☐ 急にだるさが出てきたが休むと回復する	☐ 急にだるさが出てきて持続するが日常生活はできる	☐ 急にだるさが出てきて身の回りのこともできない
食欲不振	☐ ない	☐ 食欲低下を感じるが食事量は変わらない	☑ 食欲低下を感じ、食事量が減った	☐ ほとんど食べられない
嘔吐	☑ ない	☐ 1日1-2回吐く	☐ 1日3-5回吐く	☐ 1日6回以上吐く
下痢	☑ ない	☐ 普段と比べて、1日1-3回下痢が増えた	☐ 普段と比べて、1日4-6回下痢が増えた	☐ 普段と比べて、1日7回以上、下痢が増えた
筋力低下（力が入りにくい）（部位：　　）	☐ ない	☐ 明らかな筋力低下はないが力の入りにくさを感じる	☑ 明らかな筋力低下はあるが日常生活はできる	☐ 明らかな筋力低下のため身の回りのこともできない
※1 喉がひどく渇く	喉がひどく渇く状態が2日続く場合、速やかに病院へ連絡しましょう			
※2 発熱（38.0℃以上）	38.0℃以上の発熱が2日続く場合、速やかに病院へ連絡しましょう			
その他の症状（気になること等）	時々頭が痛い　めまいがする			

次回入院で治療する場合は、病棟看護師または薬剤師にお渡しください
次回外来で治療する場合は、各診療科の受付にお渡しください



- ３７.５℃以上発熱があるとき
- 息切れや咳が悪化したとき
- 皮疹が出現したとき
- 水分・食事がほとんどとれない日が続くとき
- 下痢が続くとき
- 免疫チェックポイント阻害薬　副作用確認シートで病院に連絡する必要があるとき

上記のような症状がある場合やその他ご心配なことがある場合は
がん相談支援センターにご連絡ください

◆四国がんセンターの連絡先◆

【平日】　８：３０～１７：１５
四国がんセンター　がん相談支援センター
（直通番号）　０８９-９９９-１１１４

【平日上記時間外および土・日・祝日】
日直/夜間当直師長
（代表番号）　０８９-９９９-１１１１

翌日以降の外来受診日や検査予約日の変更
【平日】　１３：００～１７：００
四国がんセンター　予約センター
（直通番号）　０８９-９９９-１１１２



ペメトレキセド+プラチナ製剤+免疫チェックポイント阻害薬療法を受けられる方へ